

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題8 地域に根ざした学習内容の改善・充実」

I. 学校名 猿払村立芦野小学校

II. 研究の概要

研究の全体構造図

学校教育目標（めざす子ども像）

【進んで学ぶ子】～学び方を身に付け、考え、表現する子ども

【思いやりのある子】～ 自他を認め合い、大切にする子ども

【明るく元気な子】～目標をもち、最後までやり抜く子ども



重点目標（課題解決に向けて）

『子どもの実態に対応した学力向上（タブレット活用を含む）とコミュニケーション能力の向上』



研究主題

自ら学び追求する子どもの育成

～言語活動を通じた学習指導の工夫によるコミュニケーション能力の向上～



学校研究

- 仮説1 課題把握、自力解決の段階で、子どもが目的意識をもてるような課題提示や指導過程を工夫することにより、学びを学習に生かし、見通しをもち筋道を立てて考えるようになるだろう。
- 仮説2 言語活動の充実・表現する場の工夫（交流学习、集合学習など）を図ることにより、日常生活に必要なコミュニケーション能力、表現力の基礎を育成し、自分の思いや考えを適切に表現することができるようになるだろう。

- 研究内容1 (1) 課題設定の提示の工夫
(2) 問題解決の見通しの持たせ方、解決するための支援の方法
(3) 本時の課題の振り返りと授業のまとめ方

- 研究内容2 (1) 見通しをもった課題解決のための教材・教具の活用の工夫
(2) 考えを伝えたり、練り合う場の設定と学習形態（交流学习、集合学習など）の在り方

Ⅲ. 実践例

1 集合学習

(1) 猿払村はまなす学校（以下 はまなす学校）の構成と運営について

浅茅野小学校、浜猿払小学校、芦野小学校3校体制での運営が始まって14年が経過した。その間、3校で可能な限りの交流・体験活動を充実させ、児童の健全発達を願い、様々な教育活動を展開してきた。

各学校の教育活動の充実に向けて、はまなす学校における集合学習の効果は、歴史的においても実証されており、今後においてもその取り組みの重要性は変わらないと考えている。しかし、時間に限りがあること、浜猿払小学校の閉校に伴い、今年は2校体制となった。27年度は、2校になって初めての年になった。28年度は、芦野小学校が閉校となる。平成28年度は、この取り組みをどの向きで考えていけばいいのかが問われていくことになった。



(2) 方向性

- ①最後の年であり、より多くの行事に取り組む。
- ②今までの経過上取り組む内容を厳選してきたこともあり、例年通りに取り組む。

(3) はまなす学校の授業・行事計画

月	日	内 容	場 所	打ち合わせ・会議
4	8	はまなす総会・はまなす開校式提案	芦野小学校	
	25	はまなす開校式・集会・1日はまなす学校	芦野小学校	1日はまなす反省
夏休み		※日程を調整して集まる。		水泳授業全体計画 はまなす体育授業全体計画
9	1	はまなす学校交通安全マラソン大会 予備日9月2日(火)	芦野小学校	
8	29	はまなす体育①	◇低→芦野小	授業反省・指導案検討
9	6	はまなす体育②	◇中・高	
	9	はまなす体育③	→浅茅野小	
10	27	はまなす学校作文発表会	浅茅野小学校	
11	9	はまなす体験活動	水夢館、 科学館など	
冬休み		※日程を調整して集まる。		1日はまなすの検討 スキー学習の検討
1	24	1日はまなす学校	浅茅野小学校	各学校で反省・集約
2	6	はまなす学校スキー学習 予備日2月9日(木)	枝幸町	各学校で反省・集約
3	3	はまなす反省会	浅茅野小学校	



(4) 成果

- ①2つの学校を一つの学校として、指導方法を一致して行えた。
- ②コミュニケーション力向上になる機会になった。
- ③リーダーとしての力、周りを見る力、集団を動かす力が経験できた。

(5) 課題

- ①事前の打ち合わせ時間を持つことの大変さがある。
- ②学校間の移動時間が長い。

2 交流学習

(1) 鬼志別小学校との交流学習が始まった理由

平成28年度に芦野小学校は閉校し、鬼志別小学校と統合する。平成29年度より鬼志別小学校での円滑な教育活動のスタートが切られるため、交流学習が平成27年度より始まった。スタートする時、「学年ごとの合同授業や児童会行事など、児童同士が関わりあえる交流の場」を設けたり、「児童理解や学習規律・指導法の違いによって児童を混乱させないため、教職員交流・合同研修を計画する」ことが話し合われた。



(2) 方向性

平成27年度一芦野小学校の児童が鬼志別小学校の雰囲気を知る。子ども同士知り合いになる。

(1、2月で実施)

平成28年度一芦野小学校の児童が鬼志別小学校の雰囲気を知る。子ども同士がより知り合いになる。

重点～自分の考えを伝えられる。相手の思いやり、相手と関わる力を伸ばす。
鬼志別小学校の教育活動に少しずつ慣れる。

(合同学習3回、夏祭りの参加～自由参加)

(3) 今年度の交流学習の流れ

月	日	交流対象	内 容
6	9	教職員	全体交流 低学年、高学年に分かれて児童の配慮事項などの交流
6	10	児童交流	鬼志別小学校の授業に参加。その様子を芦野の子どもたちが知ったり、お互いの仲間とふれあったりすることをねらいとした交流。2時間の授業交流と給食とって帰校する。
7	22	児童交流 希望者	鬼志別小学校PTA主催の夏祭りへ参加希望する人は、参加する。
8	25	児童交流	1～4年生は遠足。6年生は修学旅行。5年生は宿泊学習があったので、鬼志別小学校で学習交流。
10	21	児童交流	3時間の授業交流と給食を食べる。掃除、昼休みも一緒に過ごす。

(4) 成果

- ① 6年生、「友だちと積極的に交流し、仲間作りをしよう。」というめあてを元、合同修学旅行で学習を深められた
- ② 5年生は、7月の宿泊学習でいろいろな話し合いを通して、人と関わるコミュニケーション能力に磨きをかけた。
- ③ 1～4年生は、粘り強くあきらめない心を鍛える遠足で一緒に過ごせる良さを感じていた。
- ④ 10月の鬼志別小学校の授業は、仲間意識を持って授業を受けることができた。
- ⑤ 鬼志別小学校の友達と積極的に交流できた。
- ⑥ 子どもたちが人と関われることの楽しさやうれしさを学べた。特に大人数の中で人の話を聞く姿勢がとても良くなった。



(5) 課題

- ① コミュニケーション能力をより高めることである。
- ② 元気な挨拶ができ、笑顔を大切にして、自分の考えを伝える力（書く、話す）を伸ばす必要がある。
- ③ 今後、鬼志別小学校でスムーズなスタートが切れるように支援していく。